かけはし vol.91

宇治武田病院
令和８年３月発行

特集

急性疾患が多い小児治療
多様な連携を大切に安心の医療を提供

宇治武田病院 地域医療連携室

ホームページはこちら▶

TEL：0774-25-2062（直通）
FAX：0774-25-2660（直通）

月曜日～金曜日／8：30～17：00
土曜日／8：30～12：45
※日曜日・祝日・年末年始はお休みさせていただいております。

理念
- 思いやりの心
- 地域社会の信頼
- 職員相互の信頼

基本方針
- ブリッジ・ザ・ギャップス
- 患者さんの権利尊重
- 信頼の医療に向けて
- 地球にやさしい環境づくり

環境方針
- 省資源・省エネルギーの推進
- 廃棄物の３Ｒ（減らす、再使用、再資源化）の推進
- 安全性・快適性の推進
- 環境広報活動の推進

小児科特集

症状を伝えられない０歳児から家族に寄り添い お子さんの成長を一緒になって支えています

急性疾患が多い小児治療は、正確な診断と日頃のケアが重要です。特に宇治武田病院小児科では、お子さん･ご家族の身近な医療機関として治療を提供するのはもちろんのこと、今後の成長に伴うアドバイスや新しい薬の情報など広くご相談に対応することで、安心ある地域の小児医療の向上に務めています。今回は、同科の仲裕美子部長と菊地顕副部長にお話を伺いました。

小児科 部長
仲 裕美子

小児科 副部長
菊地 顕

小児科の対象は何歳でしょうか。また、どのような治療ニーズが多いのでしょう。

仲　小児科の対象となるのは、生後間もない０歳児から成人までで、一般的には中学３年生（15歳）までを診療の中心としています。ただ、慢性疾患や相談内容によっては、成人になってもかかりつけ医として診療を行うケースもあります。

特に治療ニーズを感じるのは土曜日の診療です。やはり核家族化や共働きが進んだことで、「土曜日に診てもらえるので助かる」との声が大きくなっています。こうした状況を背景に、土曜日は二診制をとっており、熱発したお子さんの治療をお待たせしないよう、シフトを組み対応しているところです。

小児科の特徴について、とくに難しいのはどういった点でしょうか。

菊地　大人の患者さんと異なり、赤ちゃんや幼少児は「痛い」「つらい」といった言語化ができません。成長しても、上手く表現できないケースが多くみられます。このため我々小児科医には、洞察力を伴う非常に繊細な診療が求められます。そのためにも、お子さんには「味方」であると感じていただけるよう注意を払っています。そしてご家族・保護者さんには、どのような疾患なのかを理解していただき、治療方針や日頃、どのようなケアが必要かなど、丁寧に説明するよう心掛けています。疑問が残らないよう、よくお話を伺い、分かりやすく説明することが重要と思っています。

病院として地域における小児医療の役割をどのように考えていますでしょうか。

仲　宇治武田病院は、CTやMRIなど高度な検査機器はもちろん、血液検査や尿検査に素早く対応するのが病院としての一つの特徴です。さらに軽症例については、入院機能も果たしています。この軽症は、「夜中に急変しないであろう安定した状態」であることが一つの目安です。重篤な場合は武田病院グループで急性期を担う武田総合病院が対応します。また当科は京都府立医科大学と密接な連携をとっており、日頃のケース相談はもとより、高度な対応が求められるケースでは、同院へのスムーズな紹介を行っています。

小児科は非常に広い疾患に対応する特異な診療科ですが、これは全般にわたって治療を行うという意味ではありません。当院ではファーストタッチで求められる対応を行い、必要に応じて高度な医療機関と連携することで求められる役割を果たしています。また、起立性調節障害（OD）や過敏性腸炎（ＩＢＳ）をはじめとする慢性疾患についても、お子さんの成長を見守りながら、適時、必要な医療をご提供しています。

地域との連携について、先生方へメッセージをお願いします。

菊地　感染症など一般小児領域のほか、非常勤の先生の協力を得て小児神経、小児アレルギーについても対応しています。お子さんの将来とご家族の健康を第一とし、一緒になって地域医療を担う考えです。是非、お気軽にご相談ください。

小児科について

■ 予約

予約優先制

予約がなくても受診は可能ですが、電話予約いただければよりスムーズな診療が可能です。

■ 予防接種外来

予約制　火曜日 午後13:30・16:00

最近では接種が必要なワクチンの種類も増えていますが、同時接種も可能です。インフルエンザワクチン接種時期には、接種日枠を増やし対応しています。接種スケジュールなどわからないことがあればご相談ください。

■ 乳児健診と子育て相談

予約制　木曜日 午後13:30

10カ月健診を中心に乳児健診を行っています。感染性など病気のお子さんと接触することなく安心して受診いただける環境です。また子育て相談についてもお気軽にご連絡ください。

小児アレルギー外来

白井 千晶
日本小児科学会専門医
日本アレルギー学会専門医

2023年8月に小児アレルギー外来を開設以来、地域の先生方からのご紹介を賜りお陰をもちまして多くの患者さんに受診いただいております。

アトピー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎は患者さんのみならずご家族にとっても大きな疾病負荷がかかります。夜間瘙痒感と掻爬行動で十分な睡眠が取れず学業に支障が出る場合もあります。ステロイド外用剤の長期大量使用や睡眠不足による成長ホルモン分泌低下は身長の伸びに影響します。ASDやADHDなど発達障害との相関も注目されてきました。瘙痒感対策としての抗アレルギー剤の長期投与は慎重さが求められます。悪化時にはステロイド剤を中心とした炎症鎮静化、維持期には近年開発が進んでいる非ステロイド外用剤を用いたプロアクティブ療法が推奨されています。

重症・難治性では全身療法である分子標的薬が効果を上げています。JAK阻害薬（内服）とバイオ製剤（注射）があり、小児にも治療の選択肢が広がっています。小さなお子様はきめ細やかにサポートいたします。アレルギーエデュケーター看護師も在籍しており、自己注射が不安な方も丁寧に指導し、ほとんどの方が在宅自己注射に移行できています。公費が利用できる小児期からの治療をお勧めします。

慢性蕁麻疹

慢性蕁麻疹は、発症から６週間以上症状が持続または反復する状態と定義されています。

既存の治療で改善しない場合はバイオ製剤での治療が可能です。

食物アレルギー

ご家庭での食事・集団生活を保護者と一緒に考えます。高リスクの方は専門機関での経口負荷試験をご提案します。

近年増加しているナッツアレルギーはコンポーネント検査で摂取の可否を判断します。給食、調理実習や宿泊行事のための診断書作成も行い集団生活への不安解消に努めています。アナフィラキシーのリスクがある方にはエピペン注射の処方も可能です。

小児気管支喘息

軽症から重症の方まで年齢やライフスタイルも考慮しながら治療を行います。抗アレルギー薬の内服や吸入療法でもコントロールが難しい重症・難治性小児気管支ぜんそくに対して、当科ではバイオ製剤の治療を導入しています。

アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法

ダニ・スギ花粉に対する舌下免疫療法を行っています（一般外来でも対応可能）。

小児アレルギー外来はお一人ずつ十分な時間を確保するため原則予約制です。まずは地域連携室にご連絡ください。その他のアレルギー疾患全般に関してもお気軽にご相談ください。